



幻の国体が残したもの

津市長 前葉 泰幸

昨秋の開催が予定されていた三重とこわか国体・大会は、新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大によりやむなく中止となりました。

両大会を目標に懸命に努力を重ねてこられた選手、支え続けたご家族や指導者、コロナ禍での新しい大会モデルを目指し開催にご尽力くださった関係者の無念のお気持ちを思うと誠にやるせなく、ご協賛くださった企業や団体、ボランティアとしての参加を志してくださった市民の皆さまには申し訳なく存じます。最大時には49人が集まった津市国体・障害者スポーツ大会推進局職員の献身が日の目を見なかったことも残念でした。

国体の開催はかないませんでした、スポーツ振興の機運の高まりを次世代につなげていくため前向きに活動を続ける方々のご努力はさまざまなかたちで実を結んでいます。

国体会場として整備したスポーツ施設は、市民が気楽に生涯スポーツを楽しむ魅力的なスポットとして定着しました。サオリーナの外周はランニングやウォーキングを楽しむ方々で賑わい、屋内のトレーニング施設やプールは一日中個人の利用が途切れることはありません。

津市が競技会場となったセーリングの高校生競技人口は急増し、全国トップクラスの選手が津ヨットハーバーで練習するようになりました。

両大会に照準を合わせ積み上げてきたスポーツ

関係団体の取り組みは地域の競技環境を飛躍的に引き上げ、スポーツに関する市民の意識とパラスポーツへの理解と関心も高まりました。

この流れを絶やさず、今後も新たなステージでスポーツの喜びを味わっていただくため、昨年10月、津市は不用となった国体予算を財源とする「津市スポーツ振興基金」を創設することを決めました。

津市が国体運営のために準備した令和3年度予算は14.5億円。執行に当たり、津市は感染拡大による大会の延期や中止といった不測の事態を想定して可能な限り発注を遅らせるとともに、相手方との合意の下、厳格な工程管理を行う手法を採用しました。

その結果、開催まで2週間という直前の中止決定にもかかわらず支払いを4.5億円にとどめることができ、国体予算の未執行額は10億円となりました。そこから県の補助金5億円を返上した津市の負担額5億円を折半し、2.5億円をコロナ対策に充て、もう一方の2.5億円を「津市スポーツ振興基金」に積み立てました。

この基金を活用し、津市は令和4年度より5年間にわたってスポーツ振興事業に取り組みます。

- ①ジュニアアスリート育成のための教室の開催、合同合宿や遠征など、市内の競技団体の活動を支援する競技スポーツ振興
- ②パラスポーツ大会の審判員、ボランティア、手話通訳の経費を支援するパラスポーツ振興
- ③市民が日常的に利用するスポーツ施設改修の早期実施による生涯スポーツ振興

新たな事業の展開により市民がスポーツを楽しむ多様な機会を創出し、スポーツがより身近なものとなる環境を整えてまいります。

ケーブルテレビ123chと津市ホームページでは、前葉市長がこのテーマについて語ります



津市長コラム

検索



市長の活動日記から



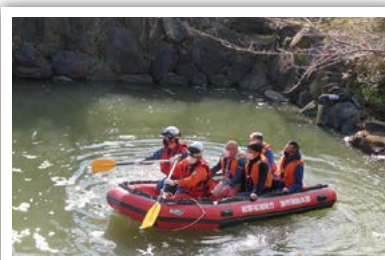
✓ 新型コロナワクチン接種会場訪問
 …9月19日、10月9日、11月27日



3回目接種に向け各会場で現場の意見を伺いました。2回目接種以降8カ月が経過した人から順次3回目接種券を発送、1月中旬から医療機関・集団接種会場で接種していただけます。

✓ 令和3年度津市総合防災訓練(一志中学校)…11月14日

熱海の土石流災害を受け、今回はコロナ禍での大規模風水害を想定。土のう構築や浸水で孤立した住民の救助ボートでの避難、土砂災害による倒壊家屋からの救助を実施しました。



✓ 三重県漁港漁協協会要望活動(農林水産省)…11月18日



同協会の会長として宮崎雅夫農林水産大臣政務官を訪問。県内漁港・漁村の水産生産基盤や環境整備の推進に加え、白塚と河芸の漁港堤防整備の十分な予算確保を要望しました。